

清
日
記

承應三年
仲

十六

和書門			
二冊	二架	六函	二四一三四號

庫	文	閣	内
六三函	二冊	二四一三四號	和書類

内閣文庫		
番號	和	24124
冊數	2 (2)	
函號	163	207

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

兼應三年

七月朔日



浅草文庫

一 河津太例

河津太例云云
松平下條より常通云云
口同之云云
皇素云云
礼部

一 ^上松平裁後^上國より蠟燭千挺二種一箱進

上 ^使使^上松平^上山^上より^上蕭^上礼^上部^上より^上處

一 ^上本多下野より糸物^上口^上流^上蠟燭^上箱^上百挺^上浪馬代

四九早六車院著

横心連る繼月四渡涉登十有餘

一 紀
紀伊敘より四指一海
（永集）

一 玄年 ^尾 松平右京宗来太公保基更

と本多日記最上田又助喧嘩泣き若助

未時辰 五月廿三日 夜又ぬいけりや友

此百からとりかへて旅中へ寄附人四人の御意

弟にこそ付與せよと自害は

仍肉記より久世三四郎迄所老中より

中上之品、味、香、色、切腹、

入所
 日
 上北
 白書院
 一
 日
 入所
 日
 上北
 白書院
 一
 日
 入所

一四^五五二

癸巳同前

御田守居

20

早壽院書以
升次軍人記

渡重丹後守

果性相類
後之丹後次

弟妹内苑助

右邊

仰舟 聖院 石 寺 度

女院所より七夕の祝儀の帷子と字の物と白
衣（一）袴（一）指輪（一）何れ箱入の進（一）復志（一）坂部（一）
村新七郎九郎此方死去

一 四月廿九日 町より力に召され仰渡り

高き山に人足も止まり不化法師あり
のりいふ所へ川筋に幾所より月ひかり
月夜少く月夜多し明かりを昼夜に相見
極つた

女院 景公の七人の後をいふ一 是服一 市二 割符に無くは是間在り

七月四日

一 松平伊豆も証する所目録

一 多居主候に領地より一 百石より五石

信州 信州代官下を来る所 信州 領内信より 信州 領内信より 信州 領内信より
上林 木より 信州 領内信より 信州 領内信より 信州 領内信より 信州 領内信より

一 紅葉山 大猷院 係四佛殿 有来才来九智ち
下々々 同十日のちん同院 御佛国者

四法事

一 淨三家方々淨者々々云薩婆王
紀上使酒井
元彈吉

昂刻 口口口口 城

渡戸丹後守並月形助組中 別後

一、左馬政司所任宿衛者所用云云云云

一當四月迄病より来ひて三月に於て歿す

於此處尾注外一り
 以上は 黒ふり二番
 中 故 文 々

細川越中

松平 加賀守

右 上 侵 石川 孫九郎

上杉播磨守

松平大信

友黨大醫院

右五使
新友在深中

上使
陳山
之
多
秀

松平 定房

上使
劉明

松平右近

上使
石塘石

依行修學

上侵
移浦伊在

京極山城

上使大保并放之と抄稿イ下

日辛

上侵必反

丹律掃部

四

上使
石川

俚科肥後寺

57

上使月

伊達忠行

17

上使
中の馬

松平薩摩守

五

上使
日

丹波乃重子

2

上使
亦在
其間

松平致書

13

已錄

宗彥

五

上
卷七

松平道三

17

上役才の集

東
子
師

四

四律

松平伝徳

同

上使

南部山城

一

上使月

松平發松

新日
多別 雅市氏書信 伊豆より来る 口伝 右ノ用
紀伊より蒲原より 伊豆より来る 口伝 右ノ用
河本清波より来る

開元五年正月
仰光に於

清皇太后
成之与推
出之日

東坡先生文集卷之八 詩集卷之八 入神

一
表

部

系助法

浪子回頭

四惟子受十

初

和月又

松平右京丞

松平定次

友去子

山田軍右衛門

逢子即水杏

公使唐四郎

子江集

近友 庄八郎

新
中
子

白井主有

忠四郎

大邑其十

七月十四日

一 ^亮上野 御代酒井雅樂次坊上^{尾聲} 御代

保井他後

^{天日} 初^日 移進^日 膳^日 至

七月十五日

一 ^亮例年^亮通^亮お仕^亮す

一 上野^亮友四^亮室^亮帷子^亮車^亮物^亮十^亮三^亮被^亮遣^亮 上使

石^亮部^亮量^亮度^亮も

一 坊^亮上^亮の^亮浪^亮部^亮最^亮力^亮公^亮料^亮也^亮 上使松平

伊豆^亮も

一 紀 上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
肥後

上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科

七月十六日

一 紀 伊教子白子系 麵子指上

一 昨日 上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科
城

上野村名氏酒井推樂殿 坊上り河兵衛科

七月十七日

一 ^元 二 元 日 柳成未列 還河

一 酒井 藤原 今 河内 茂斗 今 今

柳 今

一 松平 伊豆 上野 今 ^{年中 あり} 今 今 今 今 今 今

今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

七月十八日

一 ^元 紀伊 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

一 ^元 松平 鐵 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

一 南部 山城 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

一 清書 衆 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

荒後子

柴田七九郎

同條子

小野庄助

三子

沼井小平次

半子

戸田三九郎

子

戸田中助

松井貞之助

子

一又月帳

松平日就助

右中下性組

市子

杉井左京

子

戸田次郎九郎

子

松平頼母

小野儀兵衛

子

一又五馬

と夜深云

右中下性組

九名湯子

谷川助九郎

古大御香

書院 宗收領大御香 少人組 書入 行月 少人組 手取人 名示人

七月十九日

老

紀傳

一 南部山城 少人組 難上 是、地、理、也

一 月、後、多、事、少人組 房、後、難上

其、目、次

七月廿日

一 四三二九

和成

一 紀伊教より川草一宮より上

一 上野 所名代松平伊豆より

一 毛利日向守兵衛より屋敷より玄月廿一日雷二落廣
る書院者不より二三月焼失右より上

聞りぬ先親仕事は所と書明ぬ

上野 所名代松平伊豆より

七月廿一日

一 市書院 新川系 勸学

四條子家お六
張馬代

桂村右衛門

長部内膳

初言 市月乙之市

四條子家お六

市月乙之市

四條子家お六

市月乙之市

四條子家お六

大久保権十郎

市月乙之市

荒川宗十郎

市月乙之市

中根市十郎

市月乙之市

世八郎

市月乙之市

溝口十郎

市月乙之市

白井吉三郎

市月乙之市

荒川又七郎

市月乙之市

田中三六郎

市月乙之市

市月乙之市

市書院 市月乙之市

七月廿二日

一 ^丸田中氏二丸

沖成 ^丸末利退所

一 方々後方 ^丸神宮場 ^丸正鉄 ^丸谷 ^丸子 ^丸芝 城

七月廿三日

一 ^丸松平 ^丸氏 ^丸江 ^丸守 ^丸勢 ^丸海 ^丸湯 ^丸治 ^丸四 ^丸野 ^丸子

一 ^{上使} 上使 ^{云々} 云々 在り 命 ^下 下 各々

^{上使} 赤坂 乃 係 也

松平 右衛門 左

牧 左衛門 也

^{上使} 石川 沖 九 郎

松平 卜 總 也

松平 玄 助 補

^{上使} 古田 吉 九 郎

松平 恆 清 也

高 屋 五 郎

^{上使}

中 多 卜 總 也

馬 込 内 務

松平 玄 助 補

松平 丹 波 也

^{上使} 佐山 云 係

松平 玄 助 也

井伊 玄 助 補

^{上使} 石 虎 右 衛 門

松平 若 使 也

井伊 玄 助 也

^{上使} 伴 内 又 九 郎

桂 村 右 衛 門 佐

小 栗 右 衛 門

七月廿二日

一 松平陰兵衛より二番懸札上 尾三番目

一 月夜お雪より上方白旗 振 松四郎 松平陰兵衛より二番懸札上 尾三番目

東日
於此處同知事より松平陰兵衛より二番懸札上 尾三番目

七月廿二日

一 四つ二九 所成 松平陰兵衛より二番懸札上

一 水戸殿より難天迄指上
一 高力殿は白駒献上

七月廿七日

大坂市目付代巻川音丸屋小田五五五

一 駿河清月村松原寺に在る
御本

一松平陸奥守二香齋村上

一 小戸殿屋敷へ御香気の中を町人をして
切立し取服元切中へ百人合本ノ宗いし、
戸殿は香とり合捕りい

国立公文書館
National Archives of Japan

市
禮
書
例

一
駿河香波戸丹後と組は四眼香波大さな板
小な板
四組は越平香波組は酒井の人

紀伊敘々々々々々上

一 ^元松平佐十郎松平甲斐守部次郎

所目見 佐十郎松平佐十郎大丈年忌

一 ^元酒井澤成守同雅樂殿 所 口

在 一 由領

一 ^元佐々木修理一 資 資一 り

元日
元朝畢の事書院と云々大儀也 事と云々奉初元日松平佐十郎
後所國之次松平佐十郎 事と云々奉初元日松平佐十郎
後所國之次松平佐十郎 事と云々奉初元日松平佐十郎
一年の元日松平佐十郎 事と云々奉初元日松平佐十郎
一年の元日松平佐十郎 事と云々奉初元日松平佐十郎

七月廿九日

一 ^元四ノ三 元 所成 元

一 各戸教より二交同之鑑 元 元

一 奥平英作も去年九月 日之口 元 元

御付の事家来目見 元 元

なる 百石領あり 江戸

浪中校
口推子多あり四三

来名 仁右衛門

日

生田内匠

浪中校
口推子多あり三

飯田基乃馬

日

権名平乃馬

日

比田 松古馬

日

奥平 加乃馬

一 上杉より上言 所使 江戸 石田

一 天壽院侯家老より田十より入 飯田町より入 飯田

領

一 岩根源乃馬より石川より入 飯田町より入 飯田

一 飯田より入 飯田町より入 飯田

一 伏見殿より八月十八日 飯田町より入 飯田

一 幸丸殿より八月十八日 飯田町より入 飯田

以口紙より入 飯田町より入 飯田

江戸より入 飯田町より入 飯田

[illegible]

八月朔日

八
部
表
示
家

一^尾上杉五月京坊
侵冬十月紅臺山

所云遷客何如存身由

一 冰尾飯 内眼 日光 一 内眼 内眼

日曜
 四曜より長崎より云々四曜間云々塔上坐す云々口頭義丈下持舟上乗る
 一節お清座間口祝云々四曜云々云々早々常々四曜云々云々例是云々一節口頭義丈
 今外自長崎江進英驛米山候持隠元禪師の弘法七月廿七夜著上座

八月二日

一 海軍省より用ひたる文を
海軍省

八月三日

一 洲崎日原松創事院何部酒解
所黒書院 部

糸物

綿糸
金糸

小糸糸

口服

八月四日

一 四ノ二九ル

所成 春日未所判 四ノ

一 松平伊豆守信之助紀 北哉 四ノ二九 城

一 足上大樂院沙那光 四ノ二九 城

一 女院尾 伊豆守信之助 北哉 四ノ二九 城

八月四日

一 四ノ二九ル

所成 春日未所判 四ノ

一 内蔵部伊豆守信之助 北哉 四ノ二九 城

一 門後^{門後}坊^坊の^の屋^屋、日光^{日光}洋^洋装^装中^中服^服

月六日

一 新^新清^清香^香組^組中^中指^指物^物只^只今^今と^と衣^衣中^中山^山如^如今^今日^日
吹^吹費^費を^を持^持て^て衣^衣中^中 信^信考^考

一 香 赤

道山十右三組

二 香 白

小糸安房七組

三 香 白

中根以三組

四 香 白

三野三郎三組

五 香 白

泊井右衛門組

六 香 白

為我吉郎三組

一 荒木十人屋 石井孫九屋 奥州 馬買 三度
 一 佐後佐和七月十八日 日女日とて 毎々大水
 佐後水野英作と 飲比人 馬買 会 換 更 思 一 万
 石堤 水代 不 費 之 下 町 事 中

実
 欠

八月七日

一 四^五 三 九 石 井 成 秀 末 辰 刻 四 時

八月八日

一 上杉五月末部 上使口脈 餘多取有歌

禁中云其物

蟬榻云其

四指 青 九 三 三 三

禁裡白

蟬榻云其

四指 青 九 三 三 三

仙洞所不

鐺子拾卷

新院所不

日

女院所不

一 山本平九郎 日下於此十年 先日品端 二百名於此

下口留中居番云

行方不令 右早重百辰

一 小茶書房 湯治湯脈

一 加丸字在屋 上和下所脈

手刻 元中 高 百上杉 青 補 帶 也 使 日 行 方 不 令 口 脈 云 云

八月九日

一 酒井八郎玄清 日光寺普賢院洗心居士

三ノミ

五ノミ

八月十日

一 浄土書院 出布 四張

四ノミ

松平卜鑑

同ノミ

松平 松平

四惟子夏五

同春元漢書

口至為難字

丹伊志那

羽子子子子

小篆

羽翎子更四

名谷良

明惟子學士
羽藏

稻垣三郎

堀田上陸分

半羊代序

三浦志麻呂

東川子孫

純目録

序
祠
助
作

一 榮昌院及十三回忌 牙方大藏經會 口帳上

肉之味及不令。中山佐。り。り。り。

陳少秋 戶口後宅

一 小差乘之收支二男 五元
所見之元如所見

行

紀伊後上鮑一基永指上

[illegible]

四帷子字類編に依るとは、後ト上ル斤相助成に就くは、無法成より多きト上ル
今ハキトト、葉中より、其技、吾大ナク、屋さうや、む、り、
何ぞと、は、於、所、示、と、成、ら、但、口、市、と、口、張、成、

八月十一日

一
田中
元
外
成
利
退
所

水石散通食古沙脈也才歸從是

一、養正院及一月忌所為校者紀伊宰相及別

大野の山脈之氣果中と云ふは公の今日家光
元、此の極に及ぼす源はうと云ふは沙勝は
明の

一 松平伊豆守 堀上もろと 景光 治久 巳、成

一 為學工夫 整肅 湯治涉眠

神尾使前日走より心が故に今より走

碱

松平九左衛門守先日前願之屋敷書川原下

紀伊守大野 紀伊守大野 紀伊守大野 紀伊守大野

八月十二日

一 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野

城

一 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野

一 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野

一 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野 紀伊守相殿大野

紀伊守相殿大野

八月十三日

一 酒井日向子 伊東長湯治一昨白書之
一 古井虎之助 熱海湯治市販

和歌山府

八月十四日

一 今日市参り 瑞年三夜目

和歌山府
上ノ山

之亦四家同方以法之書用之也

九郎

十人

國陽文 長太郎

三郎

三郎

今

生門 長太郎

助九郎

三郎

十人

櫻 長太郎

助三郎

三郎

和云

水 長太郎

三郎

長太郎

三郎

長太郎

三郎

三郎

一 長太郎 長太郎 長太郎

和

長太郎 長太郎 長太郎

和

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

長太郎

八月十六日

一 長太郎

長太郎

八月十七日

一五
四
三
二
九
柳成木刻
還柳

九寸以漸光中二五台預造

一 師井深波寺紅葉山系詣 月夜之月夜

分
元

成
不
字

八月十八日

一
松平陸奥守の至孝能く其母を病中侍りて
子兄

玄鶴
上
但
漢
尾
禁
理
彭
院
仙
洞
片

永年堂

一
松平氏傳書以白屋支那鎮守今々金子島松鎮

八月廿日

一 田子二尾 沖成

一 上野所名代肥後雅重より文多し切人候

尾 霜部

一 松平伊豆守昼次御成より場上より御成

一 紀伊より岩茸一箱より揚上

上使名代阿部豊後守嘉信所長より 所員より三尾 成重より 四尾

八月廿日

一 紀伊所名代豊後守より 上使水野所長より

一
有尹敬上
陳倉近
上使中山
王の衣葉

子方子

矣日

水産仙臺に愛念の賜あり。此紙は、此所及びその志を以て。上使の中へ送るべき事。浦島
永無く、此所宰相及び其品は、難勝院及び一國志なり也。上使の志を以て、此紙を以て、浦島
永無く、此所宰相及び其品は、難勝院及び一國志なり也。上使の志を以て、此紙を以て、浦島

八月廿二日

紅葉山 卽入佛相識 寺公教所著

惟子予品

久齋

銀三枚？

信
與

張子敬

三

根を抜く

役人四人

多目とある

掃除を志す人

一 月夜に雲が重なりて改めたる

城

一 紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

一 紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

一 紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

八月廿三日

一 紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

城

紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

未日

紀伊教宗坊上より及後院後任比敷山甚く荒れ

不

八月廿四日

肥後も相殿、主介松平伊豆より上り江戸も松平

お栗もみ毎松下縁も木茂お供
何歳か東洋の家で成
大紋三つは織

上侵站与涉
涉水各侵松平

志摩子登城

保科能久
 所見 防兵 澤井 祐 永 隆 伊 是 吉 幸 明 小 糸

八月廿六日

一 水戸教習舎へ昨晚被差今日是也 城

一 増上寺傳書院へ願書被差 城所書院へ

御目見

一 大坂町番所中根大隅より多量なる物あり組長

御目見

一 同加番改村田安房より

御目見

一 紀伊教習大和村より指し書并續由書被差

口横田同屋より 小室東久兵衛

書院 出所水戸所書院 御目見後書院より上使に付書 御目見又佛書院より
一尾伊織有同改三宿明外 書院より 其尾平八郎大分より 書院より 書院より 書院より

八月廿七日

一 松平修業の通念果務多事訪修安湯
治口眼付方下主合口流意 城

河内之とす

大番石川精平組

山三三九屋

所番友常終

日長新井辰子組

横山小右

大日香

高井市右

四喜山切小香

新大番

望島友市

口口口口口

少人組

西山忠丸

二九進

水峯源三

二九新

大村七左

吉田仁右

大島小右

光長

戸田平右

一 法眼

右系 右と

宋女

榊理量

上京

好月

[illegible]

八月廿八日

一
只讀
例

祀

一 韋氏教令月十六日市部より尾刈に最厚佳

永昌人日冬
城
所見
善為
新
正
也

一紀伊軍相殿大望より一昨日
改系今冬

咸

一 舒伊叙下 指清蛇 以爲主

夏平吳城古系所
所目之 若青

庚辰
此年之憂早々幸免重於心腹今一市冬使より上進也吉良致意入所に就き後言
受平代官相有と上は是日先一日傳書夜仕と云所よりわらふと涙子ハ惟子平なりを記
主人の爲に

八月廿九日

一 軍中二元 附成 尾 四の口彦重

一 大坂番政中根大隅本多其お組長と致

一 増上より口彦重にあつた力に願物

根世叔
時辰四ツ
紀相蔵より

無多之常凡
一尾 伊藏

一 伊東大和守が今日何と七月廿八日以來迄の家
敷四子や、竹法居候所中

一 松平新左郎が水取書付持て中、内家
水入付屋敷に候所を子思ふ所流し
被授、門下大和流し、主不感、由細多流し

若廣源氏男女百五拾人 金半馬券部記上程

一史

名目 所成圓丸の上説書部外書

八月晦日

一 三時明神 皇御子人々下也

所書院番

大河内若玄清

荒尾平八郎

浪古板
付二二
二

一 坊上寺 皇御子出来本

尾四ノ金三枚 付二二 二

又二元

木原 圭

所山三七郎

浪古板 付二二 二

金三枚 付二二 二

所木修理

張十枚

田沼右方

一古岡乃牙松平丹波守家来

張十枚

近友店名

張十枚

林 嘉之助

張十枚

野山十郎

張十枚

浦池四平

張十枚

友井長三郎

唐人北支

子見
子見

九月朔日

一 沖波如例

元

系勅涉法

錦百把

錦馬代

初見

浪集

三味三本

見之院最云

上登
雲蓋院

小笠原敷馬

松平伝馬守

井戸新右三

更州馬受所用

全三枚

日

全三枚

名井孫左衛

荒木十九郎

一當月十七日紅葉山 寺還宮牙勅使卜白

有之馬兜籠人方通

勅使

石園右方長

院使

園 新大細之

有之池主人金連土田守最集材九郎

新院使

山本倉中細之

女院使

竹屋安宰相

有之池主人新左衛門守最集材九郎

奉幣使

梅谷 幸村

右此書人二柳守吉より納公木以第右處

右少人三侍者より支取銀

高坊書

妙法院殿

右此書人小谷伊藤より納松下八等

右不申より西府より向ふ公家

下力減事

活用致事

小倉守

執細

桶谷中將

執書

極痛人

大目 己辰別所書院 柳守吉より納公木以第右處
雲々書院より公院家より 信守より西川 入所より致事但馬より 多助より此堆より
次下書院より致事 柳守吉より納松下八等 高坊書 井ノ部より致事

此
口
指
下
力

九月二日

一 ^亮田中時元 所成未刊 最清

^亮松平忠房 海軍少将

九月三日

一 ^亮表 出所

糸節 涉江

兼良 松本

河原 久

^亮松平 久

^亮松平 久

^亮松平 久

另我丹波

松平丹波

秋田安房

小笠原上野

九月四日

一 四二九日

所成未列還序

一 阿部氏後子汗室湯上相張

於二九的一三上院

九月四日

一 四二九日より三三三日 四二九日

一 井伊掃部頭保科氏後子林氏云所成未列

氏有之云六月に金山寺より徳元禪師

信子より人連と云ふ人より云ふ

九月七日

一 松平右京方丈通食より書きたる

紙

一 吉田伊豆守より書きたる病中より手紙の紙

老
城
錦
部
宛
全集A

一 阿部俊中より書きたる湯治の紙

五月

於此之間休足部七三祭より常三郎様上より書きたる紙

九月八日

一 柳原紙中^老河原時辰^{時辰}紙

於所坐^老河原紙中^老河原時辰^{時辰}紙
日服^{日服}一^一或飯後^{或飯後}多^多食

九月九日

一 重陽法^老河原時辰^{時辰}紙

糸勒^{糸勒}河原

和^和十五^{十五}子^子為^為
浪^浪中^中十^十枝^枝
綿^綿部^部百^百地^地
祖^祖百^百地^地

紅^紅葉^葉山^山口^口多^多食^食人^人
和^和中^中一^一多^多食^食人^人
御^御中^中

松平^{松平}花^花澤^澤子^子
小^小笠^笠山^山地^地

牧野^{牧野}織^織部^部

八木^{八木}部^部十^十早^早

保田^{保田}甚^甚太^太清^清

和^和中^中

源井子玄溪代之宋清有為 目是也

辰下則四上下云耳掃謂或制之於清休息之間上垂乳頭以進物故
於清度間涉流而勝之曰休息間之常也喉石已上則黑書說
常於不異故博理之通事上元右曲既口乳平白書說部紀得及水反厚皮乳必垂
中於及口流以乳房拂動肥後古重文以流以完裂後於乳房出為進物也福說
次山王郭之乳乳孔排極微進而助乳早大廣間常常之乳口流終之間口痛
陳子開之各並居所見今書說口以之間可人並居所見於廊下伏兄
專七所目之黑書說口名生乳字者其乳地受乳皆主靜乳平今平到
專情之著口度之間口常也說示分乳平仙和乳多乳色黃多乳長被高乳
同日知乳出口要術中人未幼乳短成乳保固志氣壯大乳日今平

九月十日

一
三
五
七
九
十一
十三
十五
十七
十九
二十一
二十三
二十五
二十七
二十九
三十一
三十三
三十五
三十七
三十九
四十一
四十三
四十五
四十七
四十九
五十一
五十三
五十五
五十七
五十九
六十一
六十三
六十五
六十七
六十九
七十一
七十三
七十五
七十七
七十九
八十一
八十三
八十五
八十七
八十九
九十一
九十三
九十五
九十七
九十九
一百

一妙法院及今。急乎上使酒再新。亦既

松平伯耆守
伊豆大湯居
出之

一日是日增院、小姓七右衛門、高月寺、夜、辰、乾、坊。

名額分
 切敷
 大落
 江
 身
 日
 光
 々々々

九月十二日

一 九時二刻 所成未判 還御

一 今 紅葉山 上棟安法相録

一 右 手 越 大 本 原 生 所 大 方 銅 鼓 所 集

一 小 聖 子 ゆ 色 所 腹 式 鈴 木 被 覆 紐 無 致

一 右 手 口 二 宮 方 一 使 々 々 々

一 公 家 院 何 衆 人 々 々 上 使 所 再 衆 衆

右 氏 若 衆 々 々 々

大日
二 在 中 心 小 安 記 事

一
河田有以之象乃是
河田中星
城所自書院

一
松平清経が口張る
上使計を乃原に
時後年

戶沃能登方日之光
所願自來豐登
歲

不平菩薩多ありて湯治一脈

日光寺 収蔵坊藏書
七卷 日光寺藏書

香江

九月十六日

一 所白書院 出所公家礼口封顔

一 右身月並口流了之々々公家礼口封顔 官身

口流礼口封顔

公家礼口封顔

大和拾巻
その目録

和国古古古

香色一
その目録

日

国子大御方

日

右大臣中御方

日

左大臣中御方

香色一
その目録

右大臣中御方

右大臣中御方

右大臣中御方

日

右大臣中御方

日

右大臣中御方

一 右半^片为口欽 口三家方口冬 城

九月十八日

所
院使

女院使

上使

新院使

妙法院司書 上使今川刑部

河邊之岸
女院所より一程あり

九月廿日

一 佛^毛市^化澤^ん 玄^ん十四^り 口^口施^口倉^口 中^中今^今知^知經^經佳^佳

右^右才^才公^公家^家元^元花^花堂^堂清^清法^法明^明 之^之ふ^ふお^お止^止主^主修^修

四^四眼^眼之^之

一 上^上生^生所^所夜^夜酒^酒井^井雄^雄系^系氏^氏

一 禁^禁得^得沙^沙施^施磨^磨才^才 日^日光^光門^門主^主妙^妙法^法院^院同^同主^主

上^上使^使今^今川^川刑^刑部^部主^主輔^輔 執^執使^使元^元々^々 上^上使^使

吉^吉良^良若^若使^使才^才

一 戸^戸田^田之^之才^才 松^松平^平傳^傳前^前 日^日之^之ふ^ふ改^改善^善有^有才^才

城^城

根原

根原

月

根原

人

根原

月

月

清國

極台

火倉

福人

主生

押山

細大

根原

根原

月

月

月

月

月

月

少

少

少

少

振川

以

以

以

易

易

附錄

學士校

723

金坡

金聖

想

四民部

日
九
十

咸安

仲儀師

寺家

弟仕以後

月
乃
巴

大伊原

附錄
卷之七

衆人指部人

聖德太子
畠山
法平

程氏友信

安田 刑部

竹石集卷之

梧州志

案相府係

宇田大苑

東坡先生集

中西
一覽

石門先生

上田郷部

東門使

松井系記

昆

昆

一
禁宮

城

右 女院 河 下 台

仰牙日芝四

雅志臥游

玦

五言
活上与 只居代 雅示
京和存 花 所 集

少德驛 四より乃の内使大呂を元於一よりなるは
たつたものなりを極力也 信

七

一

公方係明々々々

一 得新氏肥後守登 成

未
知

九月廿二日

一 京師^元為上使吉良若狭守^元登

一 公方係^元四新上^元以^元為^元攝^元備^元相^元三

家方登^元成

一 右^元方^元紀^元河^元氣^元保^元田^元高^元指^元上

一 肥^元後^元守^元掃^元部^元氏^元及^元雲^元所^元司^元之^元成

未
知

九月廿七日

一 公方係入る新と云ふ解 右方は家
方より出有る指し

一 日支門名 上使久世大邦より菓子指

系

一 吉良義俊より京都口付より口販 黄令と拾取

一 松平信実より湯治政令 城

一 徳川幕府より来月申口 京海より口法事

小笠原義元院より所付より

一 伊豆守より 上使と包込馬より王子崩潰

明石口迄

城あり二信也四信 山北渡り

月別迄

城

宋
 此日紀伊水戸尾張各々 城
 天子御所より七日間の精進を命ぜりし
 此日明日多岐路に中より今より精進する所也
 但馬も此水戸尾張各々 城 日光寺に大和守
 天子御所より吉原御所より日光寺に大和守
 天子御所より吉原御所より日光寺に大和守

九月廿八日

一 今より所産の富を二家分斗 所買

法衣名を此斗も 沙汰

一 支曲の斗 城

一 元伊賀より生二郎の指上

子
 龍徳大寺に元伊賀より生二郎の指上

九月廿九日

一、水井乃智一所候元吉

美見
元吉

義慶三年

十月朔日

一、^元涉河内

一、乃三郎氣古事以教皇

城

一、大田使中より次系助之

城

所置之

一、板倉市と上る

涉河内

乃三郎氣古事

一、^元涉河内

一 紀伊教宗先方野次路方大分小洋の御方

今日登

城

所目又紫

上意

時張六
相殿も相願

一 右方紀伊教より使ふ相殿より山崎路迄

一 紀伊教より四橋より橋上

本日

己列果書院 都府島路方古路及紀伊方水戸方丸とる白書院より 或時大分小洋
所より果書院より古路松平路東より 所目又口脈より山崎路迄
所目又果書院より古路松平路東より 所目又口脈より山崎路迄
一 板倉市の上り下り係 係より山崎路迄

十月五日

一 大沢多利大浦市板板登 城

一 尾州教より耳二島手板より橋上

本日

大沢多利大浦市板板登 係より山崎路迄
大沢多利大浦市板板登 係より山崎路迄
大沢多利大浦市板板登 係より山崎路迄

十月三日

一 貴 州 省 長 官 沙 君

金 子 代

有 益 知 照 古

根 矢 十 郎

古 田 俊 中 君

一 板 倉 市 公 事 務 所 使 口 服 全 三 級 府 領 有

仙 洞 宗 女 院 宗 新 院 宗 示 祿 傳 有

皇 皇 板 倉 國 領 有 年 次 百 口 法 事 中 之 有

之 有 有 有 有 有 有

一 橋 川 新 九 郎 小 田 切 元 三 郎 大 坂 市 同 族 口 服

秘 録 有 成

一 松 平 公 事 務 所 使 口 服 全 三 級 府 領 有

紀 伊 敏 子 新 院 白 子 指 一 年 年 指 一 年 年

威方院

个
所
不
可
几
事
方

[illegible]

十月

五
河月三三二家方四卷

城

陽穀肥後守

停舟於上
石口侵
服
世今
服元
壽教

河津を以て家名とす

天子崩所葬為大冢不葬

之志救免之者之志先格處於罪狀

我多病在茲月復常健

十月六日

子見

十月七日

一 旦早^る附二庵^る 成^る未^る別^る 買^る清^る

一 拂^る子^る口^る中^る信^る 有^る今^る候^る玄^る徳^る旦^る況^る相^る任^る 其^る白^る

四^る内^る況^る子^る口^る中^る信^る

西^る日^る 天子^る清^るは^る新^る言^るく^る有^る今^る候^る玄^る徳^る言^る夜^る入^る於^る法^る座^る有^る及^る縁^る上^る三^る生^る房^る 候^る其^る日^る

より元
すう
しう

十月八日

一日 光陽門名案并二番と 上使列
刑部大輔

十月九日

より元
すう
しう
一 四つおと二丸と名 成未トト 四番

一 民門を登る 城

一 昨日昼過ぎに戸敷を過ぎるや河井新助が石
けし城跡の傍に石を置きやうと歌山林忠義が
と付果有見ず山戸敷に書ありとぬきぬ
河井見るとり所ありと引戻りて
一 尾谷天正あちう人——穀口一氏夜寝る所
入信僧並其後れ切敷に斬りつけ
死にせむ石は中より／＼あき

十月十日

一 公方御かし口尻より字取来たりと云

四條市よりなるものなりと書き 出所不明

一 紀伊郡より生ずる綱と云ふ

一 小倉忠右より来りしものなりと云ふ

一 江島より来りしものなりと云ふ

物

金

金

八木但馬守

日

保田久徳守

日

牧中 謙

浪子三郎

木原 重

浪子三郎

浪子三郎

浪子三郎

木原 重

浪子三郎

如右屋門

日

日

浪子三郎

浪子三郎

浪子三郎

浪子三郎

浪子三郎

浪子三郎

浪子奴

けつ二

浪子奴

甘き方

在りし能申
増井市島右

又川島右

火い番

山平市右

成田乃

杉浦乃

坂本乃

呈上

休

浪子奴

浪子奴

月

予同部百

乃入

休

高巴

休

宗

宗

宗

掃除

一 尾 田川紙中もさきとさき動解也口張

所より三
四抄綴

所見より古くはさきとさき動解也口張
文様無月己 所より三
四抄綴

十月十一日

一 公方備後・後帯・如・至

一 松平右衛門・井伊掃部・後・如・至・城

所より三
四抄綴

十月十二日

一 公方御所内様
一 堀田上様
成

奉り上る

十月十三日

一 公方御所内様
一 堀田上様
一 今度紅葉山吳公事御
一 阿部公家

奉り上る

保平夜
何故か
お蔵

保平夜
何故か
お蔵

日記

平田辰右
高松左衛門
三浦新之助
比村八郎
楠 五郎

石 新開

一 松平伊豆守 河村左衛門
一 紀伊後四國入米 八幡宮 河村左衛門
一 法民逆意 入米 八幡宮 河村左衛門

老中 河村左衛門 河村左衛門

一 河村左衛門 河村左衛門 河村左衛門

四天目 河村左衛門 河村左衛門

一 河村左衛門 河村左衛門 河村左衛門

河村左衛門 河村左衛門 河村左衛門

河村左衛門

十月十四日

一 公方^記麻呂令其介より休果

一 小田城^記中より甲辰谷村より果て西へと

一 丹羽方より又磯方より東へ使ふる湯に湯治

口^記 城

一 紀伊^記方より伊豫方より又後より指上

新^記 記

十月十日

一 表 出所 伊賀 水戸 飯 下 飯 大

名 以 後 寺 城 光 中 堀

一 掃 部 院 也 城 裏 言 所 國 人

一 水 野 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

一 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

十月十六日

紀伊教
大和
一
寺
子
孫

公方係世名新進下凡之主上介之天字
 義不^亞過之望也亦紀伊縣
 早嶽病伺

あり記
三事

十月十七日

今日之臥席
吐逆未幾方之

陽東亦上仍名吳中第以退去
 長安今晚所賦相張

一 法交紅葉山 還食方先年三象方水蘇

晩に書後書に蔵相法

一 集津田中伝中より紅葉山所収に云々

一 紀伊集に糟漬より能く云々

一 四二部より口蔵同文交し集り朝書に云々

城

庚日
辰刻 膳常の如く巨紙をたるき 中蔵傳の各條同文を成

十月十九日

一 今より所収は常々万一二五目録

夕七時より右側丹表に集り

一 今晚玄徳四内より記書の中より書く

と足并登り初めと書ふくはりて

一 ^元 氏官能沢元多居今文紅葉山石相動
以多金式枚の領

元見
石上由り口脂事也

十月廿日

一 ^元 今も口はあふく指事及 石上元中全
昌家今晚も殿事元元も口脂事下退事也

一 ^元 紀伊教より干瓢一葉を指す

一 上野四谷代松平伊豆より

一 ^日 河原道地 河原道地殿事元春ニ来

一 紀伊教より時久より三浦長川より城馬向

登
城

癸日
口服常服辰未外固到百六十四日

十月十五日

一 今^あく^し保^しは^し方^し入^しの^し書

一 紀伊^い敏^し口^し極^し尾^し伯^し加^し細^し島^し乃^し登^し
城

癸日
果川^{くわ}月^{げつ}臨^{りん}世^せ所^{しよ}屏^{へい}東^{とう}須^す今^い推^{たい}信^{しん}之^し為^し和^わ國^{こく}之^し
乃^し元^{げん}今^い及^{およ}古^こ漢^{かん}所^{しよ}所^{しよ}之^し乃^し乃^し乃^し

十月十五日

勇日記

- 一 高木原古馬 日光改定 城
- 一 紀伊殿 和 蜜柑 一箱 五拾二
- 一 口内 小田切 五拾二 四日 相所 上京 以總
- 一 姥川 五拾二 小田切 五拾二 四日 相所 上京 以總

十月廿三日

- 一 日光 日光 上使 古馬 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二

- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二
- 一 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二 五拾二

書
見光門於後大匠を以て口草を抄る

- 一 緩色草布
- 大端
- 一 暖色草布
- 一 暖色草布
- 一 暖色草布
- 中山王宮

十月廿四日

- 一 松平伊豆守上野守に於て御用を盡し
- 一 公方儀又今時方にて公方に於て御用を盡し
- 一 御用を盡し

大目
坊上より御用を盡し

十月廿五日

一 河内書院 出所

糸初沙流

綿鹿全集

櫻友書

切月五郎

松平河内守

伊達玄助

松平數馬

糸青

月日

月日

濱有根米田

糸月

月日

糸

糸青

坂田上野介

小野佐後

湯居 阿部佐中

堀三右門

扇主振

小糸右近

久見忠九郎

桑日記

十月廿七

桑日記

十月廿七

十月廿八日

一 早書院 宗川紀伊守公教より存於教

所對新耳糸袖口孔夫より書院 出所
ハ流々例

一 五典口宅 城

糸部并支上ハ孔之市

銀馬代

大久保加賀より

綿西把
銀馬代

一 束一市

一 束一市

一 束一市

一 束二毫

一 束一毫

一 束一市

所札

小野隆也

大村隆之助

五心院 隆信

安念院

智良院 隆信

南山二之宮

魚心院

三河小坂より

一 紀伊後月守千金 城子

一 只守一 地一折 文上

一 朽木氏於信山澤云 仁葉小 所美 所佛教

古所後文 何才

已辰別里書院 都書院紀伊後月守千金 所國之松平素太史并伊勢貞 所國之
早 所書院 所國之松平素太史并伊勢貞 所國之
次 智系房中子 所國之松平素太史并伊勢貞 所國之
水 生監物大村松平素太史并伊勢貞 所國之

十月廿九日

一 水野後月守千金 城子

一 末吉守 所國之松平素太史并伊勢貞 所國之

云々
云々

九

桑日

九

...

多和朱支社口

戸田宗女

戸田栲次郎

是川与云

[illegible]

昨日
昨日上達、
五折半、
礼々於口、
臨臥後、
上下、
口頂、
戴

十一月三日

一々井山々四天月酒井雅余以お領香巻一ツ

十二月六日

石川幸三 中組 五郎 六

何物
但求平素也

小計中より余り腋動流を以て引去る

「おより
「ア人の改定——と
「先同者相見

高堂之氣二名曰服膝二名曰頤

所用儀方之字乃是

何

十月六日

松平定由上生年中以事用之冬

情

十一月七日

一 松平伊豆守も自ら酒を飲む

一
 可也後者工自之書亦在飲

本日
 上
 揚子
 見
 合
 伊
 今
 他
 衣

十月八日

紀伊新忍冬酒は揚上

今日も賑わい

時辰云

中井知庵

時辰云

玄隣

時辰云

泰安

時辰云

幸若伊右衛門

時辰云

幸若次郎

多事

十月九日

貴氏より江戸電

所見之

以爲之... 天中...

卷中... 天中...

十月十日

一 露出...

...

...

...

...

...

...

一 松平...

...

...

...

...

...

...

十一月十三日

虎洲風口切所築堤橋一處

指上 免記
孝乃其法

海濱牧場より 只果口着 程前上

一 尾 此乃雲門全名瑞居村五百名

十一月十四日

一 ^老 大分保加賀より日光系信口脈下流電

城

一 今川刑部痛棟裡古 所侵^{屋一吐}昨^尾曉^尾 傳

中^尾十八日書

一 二九^三五^三五^三 所^三二^三略^三より北^三局^三有^三

火^三橋^三東^三の^三と^三且^三古^三物^三入^三より^三乃^三其^三の^三如^三に

い^三力^三い^三少^三東^三河^三は^三あ^三り^三を^三 何^三れ^三も^三川^三城^三領^三人^三

む^三と^三す^三あ^三ら^三い^三ま^三て^三書^三

老^三元^三事^三

十月一日

一 ^老 元^三元^三事^三

右^三の^三如^三に^三凡^三の^三如^三に^三書^三

傳^三

陽居之...

所服より...

時服

時服

時服

時服

時服

日

本多下総

松平若狭

中根但馬

上書員
今川刑部

文量才院

文珠院

日

一 書後...

掃部...

一 戸田...

日長... 戸田...

十一月廿七

一 免 九ツ付 二元 所成

一 紅糸、山、石、灰、漆、井、推、市、氏

一 今、一、衣、林、中、口、以、洗、買、四、使、今、月、刑、罰、必、き

以、牙

公、方、係、り、る、進、物

浪、三、百、枚
小、油、千、

花、町、振

浪、三、百、枚
綿、三、百、枚

仙、河、振

浪、三、百、枚
綿、三、百、枚

新、院、振

浪、三、百、枚
綿、三、百、枚

女、院、振

浪、三、百、枚

女、三、文、振

浪、三、百、枚

女、三、文、振

浪、三、百、枚

関、白、振

浪、三、百、枚
綿、三、百、枚

花、町、振

浪、三、百、枚

法、爾、振

浪、三、百、枚

中、三、文、振

浪、三、百、枚

女、三、文、振

浪、三、百、枚

女、三、文、振

浪、三、百、枚

女、三、文、振

今日 午上、三、元 所、成、者、中、馬 上、院、主、也、後、長、入、院、る 上、院、中、上、院、

十月十八日

一 昨 書 友 書 主 簿

所 員 之 方 行 口 渡

今 日 紀 伊 敏 足 登

城

一 紀 伊 敏 足 登 三 縣 新 兵 之 指 導

あは

一 日 是 日 山 口 県 書 主 簿 十 八 日 行 主 簿

十月十八日

亥日
清馬房 石

尾月記

加藤肥後守家入店月日依侍とて慶長元年後序京大坂に居たりと云ふ所は、
在りしと云ふ所は、肥後守家入下部大坂、一日歳日、是處より、同跡居、分置、
あり

十月廿日

一 ^{毎元} 東家 所成 所成 所成

一 ^{毎元} 倉内元 所成 所成 所成
一 紀伊 所成 所成 所成

十一月十日

一 紀伊^丸 上使大久保^丸 上使^丸

伊賀^丸 上使^丸

一 板倉^丸 市^丸 市^丸 板倉^丸 城

一 小倉^丸 市^丸 市^丸 板倉^丸 城

上使^丸

十一月十日

一 紀伊^丸 上使^丸 上使^丸 上使^丸 上使^丸

伊賀^丸 上使^丸

一 松平^丸 市^丸 市^丸 板倉^丸 城

一 今^丸 市^丸 市^丸 板倉^丸 城

四門防備氣引傳序 上使何事

日門防備氣引傳序 上使何事

亥日

板倉市二昨日降赤く於所空同 中見

一月内叙ふは虎と 移住す 藤千 鳴つ 陽居和 叙何 才 藤千 是と 上使 云ふ 人 也

十月廿三日

中根大隅組より石見境六次由

陰九より 仰付

斗者持付より夜迄云

亥日

三事

十月廿四日

一 増上寺 津原代松事候書

芝口久八 信長より

十月廿五日

一 寶樹院 法事 今月毎日 二夜言已
以之掛及人言候也

左田使中

増山深草新

好原より

伊氏集
村誠治氏

一 所蔵書に記しり

上使斗者九條

松平加賀守

日

友堂大守

日

佐竹源理

日下嘉三郎

松平城守

日

松平陸奥守

一 大徳寺に目録あり

一 紀伊縣に密傳あり

一 今も寺にあり

一 種々あり

一 寺にあり

大徳寺に唐土仙北の板あり

十月廿二日

一 ^先上々 大猷院御更々々々々々々々々々々々

大猷院御更々々々々々々々々々々々

一 松平加賀守月々々々々々々々々々々々

月々々々々々々々々々々々

癸日 掃部頭肥後守於 中門元

十月廿七日

一 ^先大猷院御更々々々々々々々々々々々

手記

一路行くと、口腹下知り、重なる
一、本多公儀より、病後、格別、
城

十月廿八日

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

口腹下知り、重なる、
所見

賣り元 杉屋より得る不事

十二月九日

一 公方殿 此後常々云々 右云々

一 今友室樹院様以迄事方口より奥上之儀

紀伊殿より教より有也其後之儀

門前より諸より云々

上使頭左原

保持把渡

日大御所様

丹伊掃部

酒井清成

門前よりし有願

日 雅未成

一 四段留之云々

夢程天竺寺

王木新公属

引院附抄本

筆院書

ふろふのり

中川島三郎

日中銀道馬

中川島三郎

一 今より古き紀伊叙し相漬飽多指し

一 此後一 古き紀伊叙し

一 古き紀伊叙し 古き紀伊叙し 古き紀伊叙し

一 古き紀伊叙し 古き紀伊叙し 古き紀伊叙し

十一月晦日

一 宝樹院叙し法華入るるお松の女上郎

御代松平伊豆守

一 古き紀伊叙し山を叙し口御代使さるる

一 今より古き紀伊叙し古き紀伊叙し

年より古き紀伊叙し古き紀伊叙し

雪後曉より風甚ゆるそく家多し雪は竹木亦敷まりて端々氷衣成上り
二重院院敷四面悉に於上野口陸奥傍へ昨来九日より右内備中も雪の深き候ゆへ共
此頃より村殿迄度々相詰り夜より朝まで五つおきと晨月分辰刻より居事
始伊豆より早代より訪ねる路津波ありしよし云々

十二月朔日

表出後方

一
左子以教古之政教所坐之
所見

号
子
氏

紀
子
氏

一 紀伊叙より四橋迄の上

上卷之双光古檀信公
修有
後必院
事已

五曲、八度間奏、石弓、井口弓之矢角の矢継一弦、木、方、建、平、口、上、之、院

上坐 即我阿叔之友也持素

寶樹院法事券

日光四門記

張學良
懷玉院
張學良
懷玉院

張之洞
西中

吉良若使守東坡政也 城切牛心獻上

[illegible]

十二月四日

一 松平^元が、伊丹^元、人市^元、坂^元、中^元、城^元

一 松平^元が、伊丹^元、人市^元、坂^元、中^元、城^元

十二月六日

一 松平^元が、伊丹^元、人市^元、坂^元、中^元、城^元

一 松平^元が、伊丹^元、人市^元、坂^元、中^元、城^元

十二月六日

一 主簿の書出

一 戸部左衛門尉井上重忠の御書品類

口金より云 信房

一 保科氏後より升任掃部頭也 城

一 伊予守上渡辺重忠の御書品類 伊予守上渡辺重忠

伊予守上渡辺重忠の御書品類 伊予守上渡辺重忠

伊予守上渡辺重忠の御書品類 伊予守上渡辺重忠

伊予守上渡辺重忠の御書品類 伊予守上渡辺重忠

一 尾 常任光比の御書品類 尾 常任光比

一 尾 常任光比の御書品類 尾 常任光比

伊予守上渡辺重忠の御書品類 伊予守上渡辺重忠

十二月七日

一 牧中在後より眼より刀に至るまで賊の居る所
固く守るべき事なり

余日
之事

十二月八日

一 保科肥後より井手掃々郎宅
城

一 丹羽重高より上方役所
城

一 今より松平伊豆守宅より三浦重國宅に
振るべき事なり

予日
師久松俊子於此處同 申之

喧忙はるよし 上聞く右は是の伊豆の
心は若しそ右喧忙はるも死罪はるもの
なり 浪多外も富なり 横使ふは世間にも
おるなり 恒きことこの世に 四世同
治本を来し 永く金満紀伊上見交ふ 飛
夫より横使ふ中 浪多なり 富なり 誠す
夕刻切腹す 志 牧和治右の 保田ハハ云
白井と来し 柳ヤと来し

十二月九日

一 昨夜地震あり 今も紀伊数山あり 不況なる
り 使も 横使ふ

十二月十日

一 宝樹院様 法事 所方 御覧 候 旨

時辰

日

日

日

辰

辰

辰

辰

善法歌源古

山本安久

市戸後右

大石

道

善

善

善

一 大坂車番より多摩川へ大坂修造人へ付て石を運

羽衣田

水野出羽守家来

山上とある

日三

紀伊

矢石金丸

月

日

高橋

一 紀伊船より下り船一匹の上

道春 高計 王徳武仙言書 詩は 信信より 足腰 頼朝より 但馬 未だ

十二月十一日

大坂車番

十二月十三日

四條拂

一 伊予守之請る願書

松平越後守

松平大膳

松平大膳

松平大膳

一 右 伊予守之請る願書

一 右 伊予守之請る願書

薩摩山内守松平丹後守

一 大久保丹波守伊予守之請る願書

日
一 献給る退去加言の給ふ大久保丹波守松平大膳丹波守伊予守之請る願書

十二月十日

一 四徳寺

重和日記

四徳寺三
張集代

小 伊勢守

新着浪人

三浦志平

東川守

日 日

病後日記
上 友成丸

左刀目派

松平門下

王東王

三竹法眼

四徳寺

口鼻

山崎
秋小深

玉葉

大田
曲副助

小夢法
三野部
紀多部
一乘天卷

新加門院
日
日
日
東一坊
不部
一社中

院使小川坊
今川刑部
城

已卯年書院
入所
紀多部
城

十二月十六日

松平
城
紀多部
城

月一ッ宛有願

本日雅東院に於て信長より書きたるに四月廿二日迄に

十二月廿七日

一 紅葉山 南無代酒井雅東院

一 院使小川坊城太助より御意奉 上付

一 酒井雅東院に於て信長より書きたるに

一 四眼より而

根下及 本園坊 日上 宗雲

日 以入 月 月 周跡

時より三 三智

けり三 宗閑 〃 宗桂

日 日 日
正家 聖子 道泉

癸日
紅雲小房代 雅永 一 加三

十二月十八日

一 四白書院 出沛院使小川坊御方御 冬

一 山口對旅 紀 帶理屋夏麻 三 四使

一 紀伊 輕二尾進 上

癸日
院使小川坊御方 為 莊家 冬 對旅

十二月十九日

一 院使小川坊僧也 概河原書院

夜 勅各并四眼

一女院より蔵来口迄等

清く口礼進使より保田

一 上夜登耶百人廻路後

陽書

一 古く夜登中次本多

院使小川坊僧也 概河原書院

十二月廿日

一 上野 御倉 保科肥後

一 阿部 清康 後 河内 守 登 城

四 膳 中

高 院

所 三

徳 園

高 院

日 二

櫓 中

一 社 中

日

東 一 坊

癸日
上野 御倉 保科肥後 河内 守 登 城
阿部 清康 後 河内 守 登 城
四 膳 中
所 三
日 二
櫓 中
一 社 中
日
東 一 坊

十二月廿一日

一 松平 伊豆 守 下 石 城

一 牧野 駿 守 去 十六 日 死 去

はるふく人伊藤もむと

十二月廿二日

一 松平已三郎元張為江村

張五叔
進上

松平為江村
宗

右領四腰物正恒

一 右身松平該園少口流登 城綿龜

献上 市目見

一 丹羽武元系初序流泥障六郎金具代

一 三宅方之丞清系功の流者有

一 花房初右少口流登 城

一 赤目見 伊藤中

国立公文書館
National Archives of Japan

十二月廿四

一 坊上 御衣保料肥後

一 日見門跡川。日見村之身 上使上杉

高月之浦案牘所系

更日記欠

十二月廿五日

一 河東書院 御衣保料伊人松久及信之 修

多信の将領の案牘教のしを 修

一 松平の案牘教のしを 修

一 保科元菊侍候 〆

一 牧中恒後等同周情より京御参 候

一 西尾右京経目口渡略は林印の牙近物に

相向西尾より経目口渡略は林印の牙近物に

一 西尾丹後も置物より字口腰物持込 〆

献上

大目
已辰利四重書院
西尾右京経目口渡略は林印の牙近物に
保科元菊侍候
〆
一月廿六日
御参

十二月廿六日

一 保友

御参

保友

保友

山崎平吉組

平吉

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

山崎

山崎平吉

成香

ハ

口天香

口針香

比田香

口香

ハ

ハ

明子

片助三郎

明子

三郎助

明子

三郎

明子

三郎

明子

三郎

明子

三郎

明子

三郎

明子

三郎

口虎組

口香

口香

口香

口香

口香

口香

口香

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

九郎

志賀有方

松平久太郎

中

川口作太郎

張新格

大友

石川

三浦

成瀬

久保

高木

中根

石井

保

保

松平

三

川口

三浦

大友

石川

川口

成瀬

久保

高木

石井

中根

三

川口

三浦

大友

石川

久保

高木

石井

中根

三

川口

三浦

大友

石川

盛岡県下大田町
仁倉屋 惣次郎
市純八郎 兼盛直

右常
市金常与

名記
全別紙辛九郎

信目上
牛原清右

西儀品増
河内保

六十儀品増
甘河保

より元
事

十二月廿八日

一
家書口伝例

一 諸子

一 修子

右子

大子

長子

三子

四子

五子

六子

七子

八子

九子

十子

十一子

十二子

十三子

十四子

十五子

十六子

丹後子

大村隆

丹波子

大村隆

丹波子

大村隆

丹波子

大村隆

大村隆

改名

記

大子

大村隆

子

大村隆

一 系初口...

若青

維子

排一系

友松

仁平方...

改郎

佐竹右...

虎菊

保科七...

刑部

酒造...

福集...

大屋氏...

福永...

叔休

福永...

作南親

小室...

唐...

安井

吉田...

即桃

吉田...

桃

吉田...

一 紀伊...

多日
長張三...
市登夜貴...

佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源

佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源
佐々木源

一 紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊
紀伊

城

酒上切ヨネ者ヨネ間ヨネ上ヨネ樽ヨネ酒ヨネ反ヨネ上ヨネ玄ヨネ平ヨネ雅ヨネ多ヨネ以ヨネ
口ヨネ上ヨネ子ヨネ介ヨネ入ヨネ不ヨネ口ヨネ膳ヨネ川ヨネ辛ヨネ雅ヨネ武ヨネ所ヨネ同ヨネ良ヨネ常ヨネ膳ヨネ
口ヨネ上ヨネ玄ヨネ反ヨネ伊ヨネ多ヨネ玄ヨネ口ヨネ膳ヨネ同ヨネ所ヨネ同ヨネ良ヨネ常ヨネ膳ヨネ
雅ヨネ武ヨネ所ヨネ同ヨネ良ヨネ常ヨネ膳ヨネ

